

調査研究報告書の発行にあたって

全国健康保険協会は平成 20 年 10 月に設立され、今年で 12 年目を迎えます。

当協会は、国民の 3 人に一人、約 4,000 万人の加入者と、約 230 万の事業所からなる日本最大の医療保険者であり、主に中小企業で働くサラリーマンとそのご家族の皆さまに良質かつ効率的な医療を保障し、我が国の国民皆保険の一翼を担っています。私たちの役割は、地域の実情を踏まえた自主自律の運営を行い、都道府県単位で保険者機能を発揮することにより、加入者・事業主の皆さまの利益の実現を図ることです。

平成 30 年 4 月に策定した保険者機能強化アクションプラン（第 4 期）では、「ビッグデータを活用した個人・事業所単位での健康・医療データの提供」、「データ分析に基づいた第 2 期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施」、「ジェネリック医薬品の使用促進」、「医療データの分析に基づく地域の医療提供体制への働きかけ」などの戦略的な保険者機能の一層の発揮を掲げ、その基盤となる研究・調査分析能力の向上を図ることとしております。

令和元年 5 月には、「保健事業の推進に向けたビッグデータの活用」をテーマに、第 6 回協会けんぽ調査研究フォーラムを開催し、当協会の保有するデータを活用した分析やその結果に基づいて実施した事業などについて、内外に広くご紹介いたしました。

また、各支部が健診やレセプトのデータを分析した成果を多くの学会等で発表し、そこで得られたエビデンスを新たな事業に活用する取組みを行っております。

これらの 1 年間の成果を取りまとめ、広く情報発信を行うとともに、当協会の調査研究のさらなる発展を目的に、令和元年度「調査研究報告書」を発行いたします。

今年度は、当協会の生活習慣病予防健診の検査項目に含まれているがん検診の効果分析や、睡眠薬の重複処方者に対する文書介入の効果分析、認知症の初診時検査や投薬の実施状況分析、禁煙外来の効果分析、糖尿病性腎症の重症化予防事業の効果分析など、計 18 本が収録されております。ご高覧いただければ幸いです。

当協会は、加入者と事業主の皆さまの利益の実現を図るため、更には加入者の皆さまの健康づくり、疾病予防、疾病の重症化予防など、様々な取組みを進めてまいります。今後とも、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和元年 11 月

全国健康保険協会
理事長 安藤 伸樹